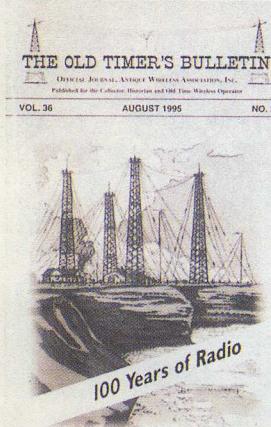


アンティーク協会との遭遇

松本 栄寿
横河電機(株)



機関誌 The Old Timer's Bulletin
1995年夏号

注

1) AWA Electronic Communication Museum, Village Green, Rts. 5 & 20, Bloomfield, NY.

Mailing Address: Bruce Kelley, Curator, 59 Main St., Bloomfield, NY 14469 USA

2) Robert B. Belfield: *Relics of the Electrical Age*, Division of Electricity, NMAH, Smithsonian Institution (1977)

3) *The Old Timer's Bulletin*, Official Journal, Antique Wireless Association, Inc. (年4回刊行)

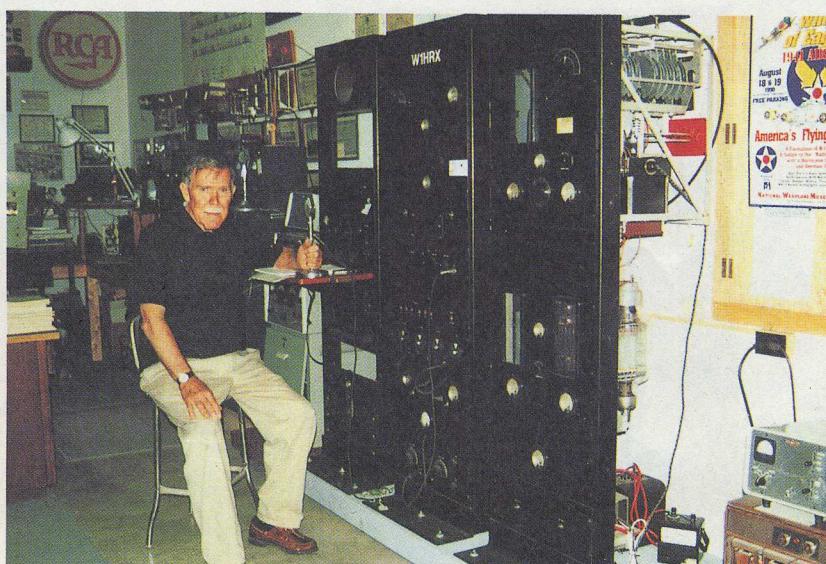
キュレータのブルース・ケリー氏。収蔵品のアマチュア局 W1HRX 1 kW 送信機の前で

ニューヨーク州のアンティークワイヤレス協会(AWA Antique Wireless Association, Inc.)を訪ねよう。スクネクタディの「GE歴史ホール」をあとに、ナイアガラ滝のあるバッファローを目指して、ハイウェイ90号線を西にひたすら250マイル走ると、ロチェスター市にたどり着く。その近郊ブルームフィールドにAWAの博物館がある¹⁾。道中にはモホーク、オネイダ、カユガ、セネカ、オノンダガなど、かつてこの地域の主人公であったインディアン部族の名前が地名として残っている。

AWAは第5回に紹介した「コレクションの情報源」の10ページに掲載されている²⁾。それによると収蔵品25,000件、動力機器(モータ・発電機・ランプ・計測器)、無線機(船舶用・商用・放送機・受信機・真空管7,000本)、電信機、蓄音機、テープ録音機、スライド・フィルム記録(無線の先駆者・無線の歴史)と多彩である。

この博物館は5月から10月まで日曜の午後2~5時、6月から8月まで土曜の午後2~4時、水曜の7~9時のみ開いている(事前の予約が望ましい)。私はキュレータのブルース・ケリー氏(Bruce Kelley)を訪ねた。

博物館は町の所有する建物の2階を占めている。マルコニー社の船舶用送信・受信設備、初期のラジオ店の再現、20世紀初頭の火花送信機、地上の電信送受信機、初期のテレビ、全波ラジオ、計測器ではガルバノメー



タ・プランジャー式電流計など、それぞれに説明板はなくケリー氏の説明を受けて初めて理解できるものも多い。

次いで案内された収納倉庫には真空管、プロ用の受信機、テレビ、オシロスコープなどの機器、プロ・アマの放送機のほか、ラジオ・無線のポスターや雑誌が雑然と積み上げられている。これらの書籍はほかでは見られない貴重なものである。AWAは1952年に設立された非営利団体でARRL(アメリカ・アマチュア無線連盟)の関連機関でもある。

アメリカの東海岸には、「AWA博物館」や「ニューアーク・ワイヤレス博物館」「GE歴史ホール財団」に見られるように大規模な電気技術のコレクションが多い。それは1970年代にあった「電気の博物館」の計画が、結局実現しなかったため収蔵品が四散したこと、またフィラデルフィアのフランクリン協会科学博物館が大改革を行った際に歴史的な蔵書を放出し、これらがコレクタの手に渡ったといわれている。ある意味では、ニューアーク・ワイヤレス博物館は歴史的物件の収集者にとってのメッカかも知れない。

AWAの会費は年12ドル、機関誌オールドタイムバーレンを年4回発行している³⁾。1995年夏号は無線100周年号で、表紙は1907年に商用稼動を始めたマルコニー社のノバスコシア大西洋横断通信局のアンテナと局舎を描いている。各地の歴史的無線協会の行事、ノミ市などの情報が盛られているが、興味ある記事として「西海岸サノゼのエレクトロニクス博物館計画」が掲載されており、400万ドルの基金協力を訴えている。

私はAWAの博物館訪問を勧めたのは、

AWAの名誉会員であり、スミソニアンの電気技術史の生き字引といわれているエリオット・シボウイッチ氏である。彼は電気部門のフィン博士のもとで永年スペシャリストを務めている。私にはフリップ・フロップの発明者エックレス博士の業績を調査する際にも、私に多くのヒントを与えてくれた。